

小集会

1. 生鮮野菜の機能性表示食品制度に向けた取組み

日時: 9月21日(金) 15:00~17:00

場所: 共通教育棟3号館311号講義室

世話人: 荒木陽一(荒木技術士事務所) yochan@affrc.go.jp

内容:

機能性表示食品制度とは 農研機構食農ビジネスセンター 山本(前田)万里
ホウレンソウにおける取組み 宮城農園研 尾形和磨
トマトにおける取組み タキイ種苗(株) 富永直樹

2. 第26回日本イチゴフォーラム

日時: 9月21日(金) 14:30~16:30

場所: 共通教育棟3号館321号講義室

世話人: 沖村 誠(農研機構九沖農研) toma23@affrc.go.jp

内容:

・「鹿児島県のイチゴ育種の現状と将来方向」

鹿児島農総セ 田中 義弘

・「イチゴ品種開発の現状と課題」

農研機構九沖農研 沖村 誠

3. 栽培系・環境制御系融合型施設園芸研究

日時: 9月21日(金) 16:30~18:15

場所: 共通教育棟3号館321号講義室(第26回日本イチゴフォーラムが終了後, 同会場で引き続き開催)

世話人: 富士原和宏(東京大院農学生命科学研究科) afuji@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

内容:

話題提供1 「花き栽培における生育調節のための環境制御へのアプローチの仕方」

農研機構野菜花き部門 道園美弦

話題提供2 「試験研究における環境計測と栽培技術について感じていること」

福島大農学系教育研究組織設置準備室 深山陽子

4. 第7回結球性野菜研究会

日時: 9月21日(金) 16:00~18:00

場所: 共通教育棟3号館312号講義室

世話人: 小林尚司(兵庫農総セ) shouji_kobayashi@pref.hyogo.lg.jp

内容:

「簡易施設を利用した結球レタスの栽培」

農研機構九沖農研 大和陽一

「福岡県におけるキャベツ研究について」

福岡農林試豊前分場 柴戸靖志

「生育予測の現場適用の取組みに向けて~キャベツ・レタス,さらには葉ネギ~」

農研機構野菜花き部門 岡田邦彦

5. 植物組織培養と超低温保存の小集会

日時: 9月21日(金) 15:00~17:30

場所: 共通教育棟3号館313号講義室

世話人: 松本敏一(島根大) tmatsumoto@life.shimane-u.ac.jp

内容:

講演1「植物超低温保存の今昔」

島根大 松本敏一

講演2「世界の植物ジーンバンク」

農研機構遺伝資源センター 田中大介

講演3「組織培養中に発生する変異についての考察」

島根大 渋谷知暉

講演4「鹿児島県における突然変異を利用したキクの花色変異育種の現状と課題」

鹿児島農総セ 白山竜次

6. 第23回ネギ類研究小集会

日時: 9月21日(金)16:00~18:00

場所: 共通教育棟3号館324号講義室

世話人: 塚崎 光(農研機構東北農研) tsuka@affrc.go.jp

内容:

1. 「春まきタマネギ栽培におけるネギアザミウマ被害と防除対策の確立に向けて」

岩手農研セ県北農研 横田 啓

2. 「タマネギべと病2次伝染を引き起こす気象条件の予報」

農研機構九沖農研 柴田昇平

7. アスパラガス研究小集会

日時: 9月21日(金)16:30~17:30

場所: 共通教育棟3号館322号講義室

世話人: 柳井洋介(農研機構野菜花き部門) yosukey@affrc.go.jp

内容:

「平成29年産春芽低収に関する気象的要因について」

佐賀唐津農林事務所東松浦農改普セ 江原愛美

「株式会社パシオスにおけるアスパラガス生産の取り組み(仮題)」

(株)パシオス 上村光太郎

8. 第50回「暮らしと園芸」を考える小集会と第11回伝統園芸研究会との合同小集会

日時: 9月21日(金)15:00~18:00

場所: 共通教育棟1号館122号講義室

世話人: 松尾英輔(元東京農業大) a169sa@tsm.bbiq.jp

田中孝幸(元東海大農学部) ttanaka@agri.u-tokai.ac.jp

内容:

基調講演1: 園芸療法・園芸福祉の歴史

「暮らしの園芸を考える」主宰 松尾 英輔

日本で園芸療法が本格的に取り組まれるようになったのは、1990年代のことですが、療法的な農・園芸の活用は1930年代から行われていました。園芸療法の本格的な導入にともなって、全国的に関心が高まるにつれて、さまざまな課題も浮き彫りとなり、要請も生まれてきました。これらを受けて、従来の経済的生産を中心とした園芸だけでなく、暮らしのなかにおける園芸の活用を包括的にとらえることが求められるようになり、園芸福祉という言葉が1998年に提唱されることになりました。このように園芸が生活面でどのようにとらえ、活用されるようになってきたか、その概要を紹介します。

基調講演2: 日本に自生するヤマアジサイ、エゾアジサイ、ガクアジサイの分布と系統分化

滋賀県立大 上町達也

日本にはアジサイ科アジサイ属植物が12種自生しています。いわゆる『アジサイ』として流通しているアジサイ園芸品種の多くは、純粋なガクアジサイ、またはガクアジサイとヤマアジサイの変種であるエゾアジサイとの交雑種と推定されています。ガクアジサイとエゾアジサイは日本の固有種であり、日本や朝鮮半島などに自生するヤマアジサイから分化したものと考えられます。本講演では、日本におけるガクアジサイ、ヤマアジサイ、エゾアジサイの分布状況とともに、地理的分布と系統解析結果から推定されるガクアジサイ、エゾアジサイの系統分化の過程についてご紹介させていただきます。

基調講演3: 種苗取引の歴史と現状について

山口大 執行正義

9. 小果樹研究会

日時： 9月21日(金)17:00～19:00

場所： 共通教育棟1号館125号講義室

世話人： 今西弘幸（秋田県立大） hima@akita-pu.ac.jp

内容：

「北方系小果実の抗酸化性評価について(仮題)」

北海道大院農 鈴木 卓

10. 「ニホンナシをつくりこなす」小集会

日時： 9月23日(日)15:15～17:30

場所： 共通教育棟1号館122号講義室

世話人： 池田隆政（鳥取園試） ikedat@pref.tottori.lg.jp

内容：

1. 特別講演

・「鹿児島県におけるニホンナシ発芽不良の発生状況と温暖化対策」

鹿児島農総セ 坂上陽美

2. ニホンナシの受粉作業を考える

・「ニホンナシの結実安定に関する研究～低温発芽性を有する花粉の選抜と和合性品種の結実率の違いについて～」

鳥取大農学部 竹村圭弘

・「ニホンナシにおける花粉調達の実態と花粉採取効率を高める手法について」

埼玉農技研セ 島田智人・柴崎 茜

・「混植によるニホンナシの自然受粉栽培について」

鳥取園試 池田隆政